

おかげたまで 45 周年！ テレビ埼玉 感謝と新たな挑戦へ

テレビ埼玉常務取締役 編成・技術担当 編成局長 大野 茂利 氏

テレビ埼玉（テレ玉、さいたま市浦和区）は、開局 45 周年を迎え、さらにパワーアップを図っています。ニュースや情報番組、スポーツ中継の充実に加え、「ゆうひが丘の総理大臣」「キン肉マン」といった懐かしのドラマやアニメの放送、吉本興業とのコラボによるお笑い文化の発信などにも注力。テレビの力を通して地域を元気にするとともに、メディアの多様化に対応し、配信事業など新たな取り組みにも果敢に挑戦しています。

ライオンズ中継とともに

テレ玉が開局したのは 1979 年（昭和 54 年）。東北・上越新幹線の建設に反対していた与野、浦和、戸田の県南 3 市（当時）の市議会が建設を受け入れた記念すべき年でもありました。読売新聞が年末に読者の投票で選ぶ県内 10 大ニュースをみると、「新幹線

開業に向けて大きく前進」を伝えたこのニュースは 3 位でした。一方、テレ玉開局のニュースは、何と！それを上回る 2 位にランクされました。

この年、もう一つ大きな話題がありました。福岡から所沢に本拠地を移したプロ野球・西武ライオンズの誕生です。しかし、当時のプロ野球で多くのファンを集めていたのは、長嶋茂雄監督が率いる読売ジャイアンツ。パリーグは人気も今一つで、他局は連日のように、ジャイアンツの試合を放送していましたが、テレ玉は、ジャイアンツではなく、敢えて地元・ライオンズの試合を中継し続けました。

当時を知るテレ玉幹部の一人は「地元チームを応援しようという狙いだったが、他局からは不思議な目で見られた」と苦笑します。テレ玉では今シーズンも引き続き、ライオンズの試合中継、応援番組「LIONS CHANNEL」の放送に全力で取り組んでいます。

「キン肉マン」とのコラボ

それからいくつもの時代の荒波を乗り越えて 45 年。「テレ玉を応援し続けてくれた県民、視聴者に感謝の気持ちを伝えたい」「テレ玉から笑顔やワクワクを届けたい」——45 周年企画は社員全員のそんな思いでスタートし、キャッチフレーズの「おかげたまで 45 周年」も社内公募と社員の投票で決めました。

発案者の諸星和義・編成部長が中心になり、まず、



テレ玉社屋



笑いで会場がわきあがった「吉本新喜劇埼玉公演」（2024年8月）

連載開始から同じく「45周年」のアニメ「キン肉マン」の放送を企画。毎週水曜21時から放送（現在は日曜21時放送）をスタートするとともに、「キン肉マン」とのコラボで周年グッズのTシャツとマグカップを制作、販売しました。アニメのファンを中心にグッズの売れ行きは好調で、TシャツはS、Mサイズがすでに完売となっています。

45周年番組としては、このほか、「探偵物語」（火曜19時）、「ゆうひが丘の総理大臣」（木曜19時）などの懐かしのドラマ、「機動戦士ガンダム」（土曜22時）などの人気アニメの放送を行っています。

「吉本新喜劇」「天竺鼠の川原の」

周年事業の目玉の一つとなったのが、吉本新喜劇の65周年ツアーとのコラボで2024年8月にさいたま市文化センターで開催した「吉本新喜劇65周年記念ツアー埼玉公演」です。

間寛平、すっちー、島田珠代らおなじみの新喜劇座員たちによる生公演に加え、漫才のガクテンソクや令和ロマンも登場。1日2回の公演に約4,000人が来場し、会場に大きな笑いが巻き起こりました。「テレ玉の視聴者、県民との“カンケイ”構築のよい機会になった」と諸星部長は振り返っています。

テレ玉では、この公演に先駆け、MBS毎日放送から「よしもと新喜劇」の番組を購入し、毎週金曜19

時から放送しており、お笑いで県内をさらに盛り上げていきたいと考えています。

もう一つの「お笑い」が2024年3月から年末まで2期に分けて放送した「天竺鼠の川原の」です。粹に収まらない、独特の感性を放つ芸人・川原克己の「街歩きロケバラエティ」に対し、「テレビには無限の可能性が秘められていると感じさせる」「一生続いてほしい番組」などのコメントがSNS上で寄せられました。第3期の放送に向けても準備を進めており、さらに多くの視聴者に楽しんでもらいたいと考えています。

こうした勢いを駆って、2024年11月には「天竺鼠の川原の」と「いろはに千鳥」「それゆけ！大宮セブン」のテレ玉3大バラエティ番組で、テレ玉が“埼



開局45周年記念番組の「天竺鼠の川原の」（配信動画より）



「月刊ムー」とコラボのトークショー
「慄け！サイタ魔会」（2024年12月）



「慄け！サイタ魔会」の出演者たち（右端が三上丈晴編集長）

玉の聖地・池袋”に乗り込みました。

池袋パルコとの初のコラボで、地下1階の特設ブースに千鳥らの等身大パネルやテレ玉45周年の歴史パネルなどを展示。番組ゆかりのTシャツやパーカー、アクリルスタンドなどを販売しました。川原克己のサイン会も開催すると、多くのファンが集まり、川原への、そしてテレ玉への熱い思いがひしひしと伝わってきました。

「月刊ムー」45周年とのコラボ

周年事業の中でもチャレンジングな企画が、2024年12月、東京・新宿で開催した「月刊ムー」との共同イベント「慄け！サイタ魔会 トークショー」です。

「月刊ムー」も創刊45周年を迎え、これも「45」つながりで実現した企画です。副題は「武蔵野の秘

境『サイタマ』のミステリーを語り尽くす！」。月刊ムーの三上丈晴編集長らが、吉見町の「吉見百穴」や行田市のさきたま古墳群、飯能市や秩父市の心霊スポットなどを題材にミステリートークを展開。イベント用に作成したトレーナーや湯呑み、「サイタ魔モリ」などのグッズも販売し、集まった100人を超える“ムー民”の心をわしづかみにしました。

トークショーの様子はテレビ埼玉をはじめ群馬テレビ、千葉テレビ、テレビ神奈川でも放送し、オカルトを通じて“埼玉のもう一つの顔”を県内外にPRできたと思っています。

TOGETAMAKUN

もう一つ新たに取り組んだのが、テレ玉オリジナルのクラフトジンの発売です。川越の酒製造・販売会社「マツザキ」とのコラボにより240本限定で製造。「TOGETAMAKUN」のネーミングは視聴者からの募集で決まりました。

埼玉県産のサツマイモやのらぼう菜、ブロッコリー、山椒、ローズマリー、ヒノキ、菜の花、いちご、柿など45種類のボタニカル（植物）を使用した「唯一無二の再現ほぼ不可能なジン」で、穏やかな香りとまろやかな甘みが特徴です。2024年11月、マツザキ本店で開かれた「武蔵野里山マルシェ」で発売を開始し、マツザキの各店舗やオンラインショップ「テレ玉家」でも販売しました。

地域や企業と手を携え、ワクワク、ドキドキを



発売開始から大人気の「TOGETAMAKUN」（2024年11月、川越のマツザキ本店で）

お届けするのも、テレ玉がタグラインとしている「あなたにカンケイあるテレビ」のミッションです。45周年をきっかけに、地域の一員であることを改めて実感しました。

ネット時代の新たな挑戦

とはいえ、人口減少、若者のテレビ離れ、ネット広告や動画配信事業の拡大に伴い、テレビ界は今、激しい競争にさらされています。

テレ玉でも、デジタル戦略部が中心になって、TVerやYouTube、Amazon、Hulu、U-NEXTなどの配信サービスにいっそう力を入れて取り組んでいるところです。

TVerは、埼玉県外の番組ファンにもコンテンツを配信できるため、テレ玉のようなローカル局にもチャンスがあるプラットフォームです。

現在、テレ玉では、人気の看板番組「いろはに千鳥」「それゆけ！大宮セブン」のほか、45周年記念番組の「天竺鼠の川原の」、格闘技ファンの熱い視線を集めている「RIZIN 魂」などの配信を行っています。

「いろはに千鳥」は2022年度、2023年度の2年連続TVerアワード特別賞を受賞しました。

このほか、「いろはに千鳥」はAmazon、Hulu、U-NEXT、Netflixに、「天竺鼠の川原の」はU-NEXTなどにそれぞれ配信。放送局の高い技術と信頼性を武器に、「RIZIN」のライブ配信や自治体のセミナーなども展開し、放送事業外の分野へも足場を広げています。

ただ、ネット社会であっても、テレビの信頼性、地域に密着した情報発信の重要性は失われていませんし、ますます高まっているといえます。

総務省情報通信政策研究所の調査（2023年度）



テレビ埼玉の開局から現在までを示した「ヒストリーパネル」

によると、情報源としての重要度はインターネットがテレビを上回りトップですが、信頼度については新聞、テレビが6割強であるのに対し、インターネットは3割弱です。

こうしたテレビの高い信頼性もあって、総務省の有識者会議は「地域に密着した情報を伝える放送が災害時に果たす役割は極めて重要」とも指摘しています。テレ玉としても、ローカル放送局としての社会的役割を改めて肝に銘じ、さらに50年、60年、100年と地域に貢献し続けていくテレビ局でありたいと考えています。